

技術と社会部門 2023 年度部門賞 部門功績賞受賞者挨拶

技術と社会部門功績賞を受賞して

中部大学工学部機械工学科

高田 一

この度、2023年度部門功績賞を12月16日に受賞しました。たいへん光栄であり、部門の皆様には感謝申し上げます。

この賞は2008年11月から年2回のペースで、合計23回開催した技術者倫理セミナーの主査を担当したことが主な対象であり、この他に2008年から3年間ほど7回にわたり、知的財産権委員会の主査を務めたことも含まれています。

技術者倫理の教育が必要になったのは、1999年に JABEE（日本技術者教育認定機構）が設立され、JABEE の基準の中に「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解」という項目があります。それが技術者倫理を指しているのです。大学などで JABEE の認定を受けるには、技術者倫理の授業が必須になってきたこと、また1990年代には企業などで技術的な不祥事が頻発したことなどが背景にあります。各学協会でも1990年代に倫理規定などを制定し、機械学会も1999年に制定しています。2000年に日本技術士会からの委託で、機械学会では専門のセミナーの他、技術者倫理セミナーも開催しました。そのとき主査を務め、2001年1月にはアメリカの倫理（Ethics）の調査のため、テキサスインスツルメンツ社とロッキードマーチン社を訪問しました。翌年からは、関東支部で毎年倫理セミナーを開催し、2008年からは技術と社会部門でも開催するという経緯があります。部門でのセミナーは、日本技術士会の機械部門、化学部門、建設部門の技術士の方々のご協力のもと開催しました。

受講者に魅力ある課題をセミナーで取り上げるため、セミナー終了後すぐに次の課題を検討し、セミナーの前には持ち寄った課題を吟味し検討課題の抽出、プログラムの作成という過程を半年サイクルで進めてきました。セミナーの一週間ほど前に受講者に資料を送付し、読み込んできたうえでセミナーに参加してもらいました。技術者倫理では1986年1月28日にスペースシャトルチャレンジャーが打ち上げ後73秒で爆発したため、7名の乗組員が全員死亡した事故を例題とし、技術者と経営者との対立が取り上げられることが多いが、それと同様「技術者」の倫理では技術的な課題によって起こった不祥事を取り上げることが多くなります。共通な課題としては基準遵守、専門家の責任、経営者の責任、安全優先、コスト優先、説明責任、危機意識、データ改ざんなどがあります。具体的な課題としては、JCOの臨界事故、福知山線脱線事故、三菱自動車リコール隠し、神戸製鋼のデータ改ざんなどを取り上げ、2011年の東日本大震災の後

は福島第一原子力発電所事故だけで、緊急時の行動、リスクマネジメント、英文報告書など4回取り上げました。

各回とも午前は課題の内容と議論すべきポイントを話し、午後は数人でのグループ討論とその後の全員参加でのグループ発表、最後は各人からの発表を行い、さらに理解を深めるよう進めました。機械学会の会員が多かったが、他の分野の方からのご意見は、種々の方向からの視点で考えることができ、受講者や講師陣が考えさせられることもありました。ほとんどの会で十数名の参加者が受講し、多いときには定員の30名を超えることもあり、議論が白熱しました。

最後に、部門のさらなる発展をお祈りしてご挨拶といたします。ありがとうございました。



高橋部門長（左）から盾と表彰を受ける高田先生（右）：写真編集者提供

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.49

(C)著作権:2024 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門